第4学年 社会科学習指導案

指導者 京都市立伏見南浜小学校　加藤 良多郎

1. 日時　　令和8年 11月13日（金） 第5校時（13:10～13:55）
2. 学年・組　第4学年 1組（26名）
3. 単元名　「府内の特色ある地いきの様子」
4. 小単元名 「古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市」

5. 小単元の目標

府内の地場産業が盛んな地域の様子について、地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめる。また、地域の様子を捉えて、それらの特色を考え、表現することを通して、府内の地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6. 小単元の評価規準

〇知識・技能・・・知

①地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、地場産業が盛んな地域の様子を理解している。

②調べたことを白地図や文などにまとめ、府内の地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。

〇思考・判断・表現・・・思

①地場産業が盛んな地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、府内の地場産業が盛んな地域の様子について考え、表現している。

②地場産業が盛んな地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして府内の地域の特色を考え、表現している。

〇主体的に学習に取り組む態度・・・態

①府内の地場産業が盛んな地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7. 「自己決定力・自己調整力」を育むための児童の実態と目指す姿・取り組みについて

児童について

本学級の児童は、社会科において、問いに対する予想をたくさん書いたり、検証で気づいたことだけではなく自分の考えを付け足してノートにまとめたりする力が育っている。また、友達と積極的に意見を交流するなど、意欲的に社会科の学習に取り組む様子が見られる。一方で、時間の中でできる活動の量に差があるため、検証の量や答えの質に差が出てしまうことが課題である。主体的に学習を進めることを大切にしながらも、自分の力に合わせて活動を決定したり、調整したりしながら、学級全体がおおむね満足できる基準に届くように、場の設定や児童同士の関わり合いを大切にした授業づくりを進め、自分なりに答えや考えをまとめることができる自己決定力を育みたい。

また、友達と交流する際に、同じ友達とばかり交流する児童や積極的に交流に入れない児童がおり、考えの広

がりや深まりが十分でない様子も見られる。たくさんの人と交流したり、活動によって交流する相手を選んだりする自己調整力を育てることが必要となる。場の設定を工夫するなどして、目指す姿に近づくことができると考える。この単元を通して、児童が、自分の学習を円滑に進めることや自分の考えを深めることに繋がる行動を、自ら選択できるようになっていくことが、この先、高学年や中学校での学習、その他の教科の学習に繋がることを意識して、指導に当たりたい。

単元で目指す姿

・自分の力で問いに対する答えや考えをまとめられる。
・自分の考えを深めたり、疑問を解決したりするために、自らの行動を選択できる。

取り組み

・友達と交流する、自分で考えるなど、活動に選択肢を作る。
・ノートや板書を自分たちの力で作り上げる。
・ノートや板書の書き方を統一し、学級全体で共有しやすくする。
・リーダー制度を活用し、児童が主体となって活動を進める。

8. 指導計画

【指導のポイント:主な凡例 ✍手立て !配慮事項 ㊖他教科等との関連 ㊙個別支援 ICT機器活用 ㊐自己決定力・自己調整力】

	時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価
つかむ	1	○白地図に着色し、お茶づくりのさかんな地域に関心をもち、宇治茶製品から学習問題をつくり、予想する。 ◆京都府でお茶づくりが盛んな地域はどこだろう。 和束町など、京都府の南の方で茶の生産量が多い。でも、宇治市のまちの中には『宇治茶』と書いたものがたくさんあるよ。宇治市で茶の生産量が少ないのにどうしてかな。 ［学習問題］ どうして宇治市では、宇治茶が有名なのだろうか。 ［学習計画］ ・昔からたくさん作っている→宇治茶の歴史 ・生葉の育て方やお茶のつくり方が特別→宇治茶のつくり方 ・生産量は少ないけどおいしいから→宇治茶の人気	✍京都府には自分たちの市と様子が異なる地域があることを想起させる。 !お茶を実際に触ったりにおいをかいだりする際には、アレルギーがないか事前に確認しておく。 ✍宇治市の茶の生産量と宇治市のまちの様子の写真から気付いたことを基に学習問題をつくるようにする。 ㊐児童の疑問を基に、学習計画を立てる。	思① 態①
調べる	2	○予想を基に、お茶づくりが盛んな理由について調べる。 ◆なぜ、宇治市で宇治茶がつくられるようになったのだろう。 ・栄養のある土や霜を防ぐ霧のおかげで、宇治市周辺はお茶づくりにあった気候である。 ・約 280 年前に永谷宗円が宇治製法を生み出した。 ・今では全国のお茶が宇治製法でつくられている。 宇治茶はとても歴史があるお茶だった。そんなお茶の葉をどうやって育てているのかな。宇治製法ってどんなつくり方なのかな。	✍京都府の地形図を提示し、宇治茶の生産が盛んな地域に川が流れていることに気付かせる。 ✍京都府茶協同組合の人の話から、分かったこととさらに知りたいことを交流し、次時への見通しをもたせる。 ㊐宇治市で宇治茶がつくられるようになった理由について、自分たちで答えをまとめる。	知①
	3	○茶葉の育て方を調べる。 ◆宇治市では、茶葉をどのようにして栽培しているのだろう。 ・覆下園と露天園がある。覆下園は手で新芽を摘むみ、露天園は機械で摘むんだね。 ・覆いをかけるとおいしいお茶になる。 ・宇治市では、手作業で大変だけど、覆いをかけて育てているのだね。だからたくさんは作れない高級なお茶なんだね。	✍手間暇を掛けて育てていることに気付くように、高級な茶葉を育てるポイントを問い掛ける。 ✍P58 の「2024 年度京都府茶生産統計」の資料で、生産実績と育て方の関係について考える。 ㊐茶葉の育て方について、自分たちで答えをまとめる。	知①

	4	○宇治茶製法について調べる。 ◆宇治茶はどのようにつくられているのだろう。 ・昔は手もみ製法・今は機械 →つくり方を比べると、昔は人の手でやっていたことを今は機械でやっているだけで、つくる手順はあまり変わっていない。でも、機械だと短い時間でたくさんの宇治茶をつくることができる。機械の方が茶農家の人も楽にできていいね。	✍今と昔の宇治製法の共通点と相違点を整理するとともに現在の生産方法のよさを理解する。 ICT Web サイトの動画『宇治茶手もみ製茶法』などを用意しておく。 自宇治茶製法について、自分たちで答えをまとめる。	知①
	5	○伝統の技術を受け継ぐ理由について考える。 ◆機械でつくれるのに、なぜ『手もみ製法』が残っているのだろう。 昔からのつくり方を受け継がないと、つくり方をみんなが知らないようになってしまうからだと思う。それに、工場でもつくる手順は同じだから、手もみの技や経験、職人さんのかんが生かされるからだと思う。	✍前時の生産方法の共通点を再度振り返り、本時の問いに対して子どもなりの考えをもてるようにする。 ✍機械を使う時にも手もみ製法の技が生かされていることから、手もみ製法が今も宇治茶づくりに大切な役割を果たしていることに気付くことができるようにする。 ✍宇治茶は伝統を大切にして作られていることを押さえるようにする。 ✍宇治茶の実物を見たり、急須を使って飲んだりすることを通して、宇治茶のおいしさや魅力に気付くことができるようにする。 自伝統技術を受け継ぐ理由について、自分たちで答えをまとめる。	知① 思①
	6 （本時）	○お茶の消費量の変化に対する様々な取組について調べ、その意味を考える。 ◆たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうには、どうすればいいだろう。 ・自動販売機でペットボトル入りの宇治茶を販売している ・宇治茶を使ったスイーツ売られているよ ・急須を使ったお茶の入れ方指導しているね。 ・宇治茶ふれあい教室を開いているよ。 ・伝統的な味わい方を守りながらも、気軽に宇治茶を味わってもらったり、宇治茶との出会いを楽しんでもらったりして、宇治茶のよさに気付いてくれるようにしていたから、今後は宇治茶が飲まれるようになっていくと思う。	✍急須の写真や「各家庭のお茶の消費量」のグラフから、本時の問いに繋げる。 ✍「老舗茶問屋」「京都府茶協同組合」の話から、宇治市の人たちは宇治茶を大切にしていることに気付かせるようにする。 自宇治市の人たちの取り組みから、宇治茶の今後について自分たちで答えをまとめる。	知② 思②
まとめる	7	○調べたことを基に、学習問題について話し合う。 ◆どうして宇治市では、宇治茶が有名なのだろう。また、よさを広めているのはどうしてだろう。 宇治茶製法が生まれた場所であるし、宇治市では今でも伝統の手もみ製法を受け継いで、苦労して丁寧につくっている。そんな宇治茶を人々は大切に思っている。だから、宇治茶のよさをたくさんの人に知ってもらい、宇治市に来てもらって、もっと宇治茶に親しんでほしいと思っていると思う。 ○単元における学びを振り返る。 ◆私たちの街には、どのような良さがあるだろうか。また、その良さをどのように広めればいいだろうか。	✍前時で取り上げた取組以外のものを資料で提示し共通点を考えることで、宇治茶のよさを広めていることに気付くようにする。そして、学習問題に「良さを広めて」を加えて話し合う。 ✍発言を『宇治茶の良さ』から『宇治市の魅力』に繋げて板書する。さらに宇治市の魅力が伝わることでどのようなまちになっていくのかについて考えるようにする。 自今までの学習をふり返りながら、学習問題について、自分の言葉でまとめる。 ✍自分たちの住む街にも目を向けることで、自分たちの街の良さを再発見することに繋げる。	態① 思②

記録に残す主な評価場面（例）

・知①　「宇治市で宇治茶がつくられるようになった理由について記述したノートや発言から」【３時間目】
・思②　「宇治茶をたくさんの人に飲んでもらうために、宇治市の取り組みを基にして考えた意見を記述したノート」【６時間目】
・態①　「学習問題に対して、学習してきた情報を基に答えを記述したノート」【７時間目】
・必要に応じて、単元内で確認（ペーパー）テストを実施し、評価資料として活用する。

9.　本時のねらい

たくさんの人に宇治茶をのんでもらうために、宇治市が取り組んでいることについて知り、自分の考えをまとめる。

10.　本時の評価（評価方法）

宇治市が取り組んでいることについて検証したことから、宇治茶の今後について、自分の考えをまとめることができる。（ノート・発言）

11.　本時の展開

学習活動	○教師の主な発問 ・予想される児童の反応	●支援 ○留意点 資質能力
1.前時までの活動をふり返る	○前の時間はどのような学習をしましたか。 ・宇治茶づくりには機械が使われていました。 ・宇治茶は機械で作られていますが、手もみの技術も生かされていることが分かりました。 ○宇治茶は伝統的な技を生かしながら、手間暇をかけて作られているのですね。	○前時の学習をふり返り、宇治茶は技術者が手間暇をかけて作っているものであることを押さえておく。
2.P63「急須とお茶」の写真や「各家庭のお茶の消費量」のグラフを見て、問いを立てる。	○この写真を見てください。この間は、急須を使ってお茶を飲みましたね。どうでしたか。 ・煎茶よりも甘くておいしかった。 ・煎茶よりも高級に感じた。 ○このグラフを見てください。ここから、どんなことが分かりますか。また、どんなことが考えられますか。 ・各家庭のお茶の消費量は、どんどん減っています。 ・2002年と比べると、2023年は、半分くらいまで減っています。 ・みんながお茶を飲まなくなっていると思います。 ・お茶の作る量が減っていると思います。 ・お茶が売れなくて、お茶を作る人が困っていると思います。 たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうには、どうすればいいのだろう。	○宇治茶は手間暇をかけて作られており、とてもおいしいものであるが、現状は消費量がどんどん減っているというギャップを感じさせるようにし、このままでは宇治茶が無くなってしまうという危機感をもたせるようにする。 ○宇治茶を入れて飲むことだけではなく、宇治茶の粉末を使用することも消費量に繋がることを押さえる。 ●写真やグラフを拡大したものをテレビに映し、学級全体で問題意識をもてるようにする。
3.問いに対して予想する。	○たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうには、どうすればいいと思いますか。取り組みの効果を考えながら、予想してみましょう。 ・町中にポスターを貼って宣伝すれば、観光客買うようになっていくと思います。 ・急須を使ったお茶の入れ方を教えることで、お茶を飲む人が増えていくと思います。 ・抹茶味のアイスやお菓子を作れば、たくさんの人が買ってくれると思います。	○取り組みに対して、どのような効果があるのかを考えながら予想を立てるようにする。 自己調整力 予想の出来具合に合わせて、児童が行動を選択する。 ・教室後方で、友達と予想を交流する。 ・近くの人と、新しい予想を出し合う。 ・自分の席で、予想を深める。

4. 問いについて検証する。	○教科書 P63を見て、問いについて検証してみましょう。予想と比べてみてもいいですね。 【写真から】 ・宇治市には、宇治茶を自動販売機で売っている。 ⇒観光客が、気軽に宇治茶を飲めるようにしている。 ・宇治茶を使ったスイーツを販売している。 ⇒甘いものだと、大人から子どもまで楽しめる。 ・急須を使ったお茶の入れ方を指導している。 ⇒急須を使ったことがない人が、興味をもてる。 ・宇治茶ふれあい教室を開催している。 ⇒宇治茶について詳しく知ることができる。 【人の話から】 ・宇治茶の伝統を大切にしながら、時代に合わせて発展させている。 ⇒若い人にも飲んでもらえるように考えている。 ・温度や量など、専門家が教えている。 ⇒宇治茶の伝統を大切にしている。 ・宇治茶は素晴らしい商品である。 ⇒宇治市の人は宇治茶を大切にしている。 【キーワード】 ・自動販売機 ・宇治茶を使ったスイーツ ・お茶の入れ方を指導 ・宇治茶ふれあい教室 ・伝統 ・時代に合わせて発てん ・専門家 ・すばらしい商品	○資料から分かる宇治市の取り組みや、宇治茶に関わる人々の思いから、自分の考えを付け足しながら検証を進めるように促す。 【検証の視点】 ・宇治市はどのような取り組みをしているか。 ・宇治市の人たちは、どのような思いで取り組んでいるか。 ●教科書 P63のコピーを準備し、資料を切り貼りできるようにしておく。 ●まとめる時に使う色を分けて、視覚的に分かりやすいようにする。 黒…資料から分かったこと 赤…答えに繋がるキーワード 青…自分の考え・疑問 ●板書にまとめる時にも、視覚的に分かりやすいようにする。 【板書】 ・写真を準備し、区画を分けてまとめられるようにする。 【色分け】 白…資料から分かったこと 黄…答えに繋がるキーワード 青…自分の考え・疑問 ○リーダー（4 人程度）が待機しておき、全体を見ながら行動する。 自己調整力 〈リーダー〉 ・教科書の資料のどこを中心に担当するかを、他のリーダーと相談し、決定する。 ・板書をどのようにまとめるか、友達と相談しながら決定する。 ・話し合いの中心となって、検証を進める。 〈その他の児童〉 検証の進み具合や周囲の状況を考え、行動を選択する。 ・友達と話し合い、検証を進める。 ・自分の席で検証を進める。 ・資料から考えられることを、友達と話し合う。 ・答えに必要な情報を板書にまとめる。 ・板書のまとめ方について、友達と相談する。

		自己決定力 ・資料を見たり、友達と話し合ったりする中で、答えに必要な情報を抜き出す。 ・教科書のコピーの中から必要なものは切り抜いて活用する。
	○検証したことを確認しましょう。リーダーの人は発表してください。 ・宇治市では、自動販売機で宇治茶を売ったり、宇治茶を使ったスイーツを販売したりして、手軽に宇治茶を楽しめるようにしています。 ・急須でのお茶の入れ方を指導したり、宇治茶のふれあい体験をしたりして、宇治茶の魅力が伝わるような活動をしています。 ・宇治茶の伝統を大切にしながらも、時代に合わせて形を変えて、発展していくことが大切だと考えています。 ・宇治茶は入れる人によって味が違う、素晴らしい商品だと言っているので、宇治市の人にとって大切なものであると考えます。	○宇治市の取り組みは、どのようなねらいや思いがあるのかを全体で確かめながら、発表を進めていくようにする。 ●リーダーに対しては、検証の段階で、発表する箇所について話し合いをしておくように声をかける。
	○リーダーの発表に対して、付け足しの意見や考えはありますか。 ・自動販売機で宇治茶を売ることで、観光客などが買うようになると思います。 ・宇治茶を使ったスイーツなどは、苦い味が苦手な人にも人気が出そうだと思いました。 ・SNS などを活用して、たくさん宣伝していくことで、宇治市に観光に来る人が増えると思います。 ・宇治茶の伝統を引き継ぐ人も必要になると思います。	○答えに繋がるように、自分は宇治市の取り組みについてどのように考えたのか、確かめながら進める。
5. 問いに対する答えをまとめる。	○問いに対する答えを、ノートにまとめましょう。 ・自分のノートに答えをまとめる。 【答えの例】 たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうには、宇治茶を使ったスイーツをどんどん売ったり、自動販売機で宇治茶を売ったりするとよい。すると、たくさんの人が宇治茶を味わい、宇治茶のおいしさや魅力に気付くことができると思う。	○本時の問いに対する答えを、自分が検証したことを基にまとめるように伝える。 ○宇治市の人たちの思いも大切にしながら、答えをまとめるように促す。 自己調整力 検証したことを基に、本時の問いに対する答えを、自分の力でまとめる。

6. 本時の学習についてふり返る。	○今日の学習について振り返りましょう。 【ふり返りの視点】 視点① 宇治市の人たちの取り組みについて感じたこと。 視点② 宇治茶の伝統を引きつぐには、どうすればよいか。 【視点①について】 ・宇治市の人たちは、宇治茶を大切にしていることが分かった。 ・自分も宇治茶を使ったスイーツを食べてみたいと思った。 【視点②について】 ・急須の入れ方や手もみ製法などの体験会を開くことで、宇治茶の伝統を知ることができる。 ・宇治茶の魅力をまとめて、ポスターにして宣伝することで、宇治茶の魅力に気付くことができる。	○本時の学習をふり返るだけでなく、次時の学習に繋げるために、ふり返りの視点を設定しておくようにする。 ○視点②に関しては、伝統は引き継ぐ人が居なければ廃れていくという視点に気付かせるようにする。 自己決定力 本時の学習を踏まえて、どうすれば宇治茶の魅力を広めることができるか、自分なりの考えをまとめる。

12. 板書計画

